泌尿紀要33巻10号
1987年10月

三樹会病院における臨床統計（第6報）

—1986年度外来新患統計—

医療法人社団三樹会病院（院長：丹田　均）
丹田　均*・加藤　修爾・大西　茂樹
中嶋久雄・毛利和富

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE UROLOGICAL CLINIC OF SANJUKAI HOSPITAL IN 1986

Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki ONISHI,
Hisao NAKAJIMA and Kazutomi MOORI
From Urological Clinic of Sanjukai Hospital
(Chief: Dr. H. Tanda)

A statistical study was performed on new outpatients. The total number of new outpatients in 1986 was 8,174 (male: 5,177, female: 2,997) and the male to female ratio was 1.73 : 1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (7,043), urogenital diseases undefinitely diagnosed (689), no diseases (357), and diseases other than urogenital (85). Thirty percent of the outpatients were referred to us by other sources. The number of operations on new outpatients was 182, circumcision, resection of condyloma and vasectomy were representative. The peak of the age distribution was in the thirties for males and in the twenties for females.

A statistical study was made on new outpatients according to the international disease classification. There were 109 malignant (urogenital) tumors (1.4%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 21.4%), upper urinary tract stone (16.8%), prostatitis (14.1%), and benign prostatic hypertrophy (11.3%). In males the major diseases were prostatitis, upper urinary tract stone, benign prostatic hypertrophy, balanoposthitis, phimosis and in females they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, renoptosis and neurogenic bladder.

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

はじめに

1986年度の三樹会病院の外来新患統計を行なったので報告する．（1986年4月1日より東札幌三樹会病院から医療法人社団三樹会病院とした．）

対象と方法

1986年1月1日より同年12月末日までの1年間に当院を受診した新来患者（以下新患とす）を対象とした．疾病分類は第1報[1]に準じた．

結果と考察

1．外来新患数

新患総数は8,174例で男子5,177例（63.3%）女子2,997例（36.7%）であった．男女比は1.73：1であった．前年度の新患総数は7,786例であり約400例多く受診した．また他医より紹介うけた患者数は2,594例（31.1%）であった（Fig. 1）．

Table 1に新患の年齢層別の受診数を示した．男子では30歳代に女子では20歳代にピークを示した．総じてみると30歳代と50歳代の2相性の山型を示した．大学関係の外来統計に多く認められている現象である．おそらく50歳代のピークは，上部尿路結石症の治

* 現：札幌医科大学非常勤講師

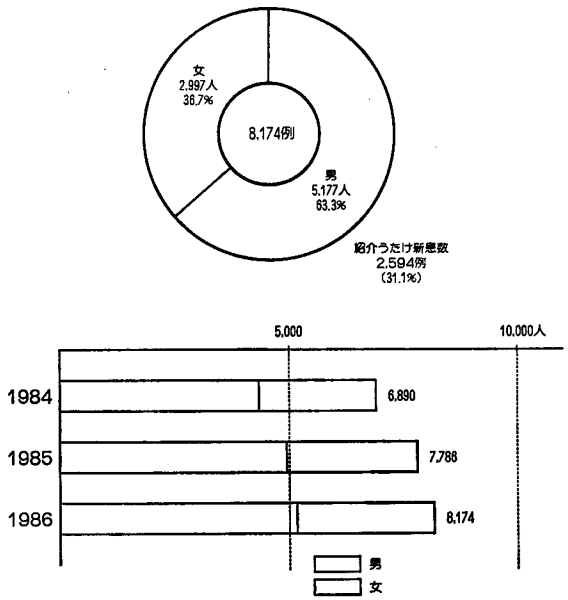

Fig. 1. 1986年度新来患者数.

Table 1. 新来患者（新患）の年齢層別性別分布（1986年度）.

性別	0－10歳	11－20歳	21－30歳	31－40歳	41－50歳	51－60歳	61－70歳	71－80歳	81－90歳	91－100歳	合　計
男性	450	327	838	946	691	740	626	432	115	12	5177
女性	121	202	572	487	511	564	334	176	30	0	2997
合計	571	529	1410	1433	1202	1304	960	608	145	12	8174

療の他に血尿・疼痛の精査のため，1つのピークを示したものと考えている.

新患の内訳を Fig. 2 に示した. 確診は86.2%，未診が8.4%，泌尿器科的正常が4.4%，他科が1.0%であった. 入院患者総数は1,356例で886例（65.4%）が紹介をうけたものである.

2. 外来患者手術

外来での手術数は182例で，内訳を Table 2 に示した. 例年のとおりの環状切開，vasectomy, condyloma 切除がおもなるものであった.

3. ICD に基づく1986年度外来患者（Table 3 (1)～(8)）

結核性疾患12例受診したが，例年通りで，結核の根強さを示した. 性器ヘルペス，毛じらみ症なども昨年同様減少の傾向はない（Table 3 (1)）.

Table 3 (2) に新生物の疾患数を示した. 全尿路系悪性腫瘍は109例（1.4%）であった. 膀胱腫瘍は例年50～60例受診している. condyloma も昨年63例,

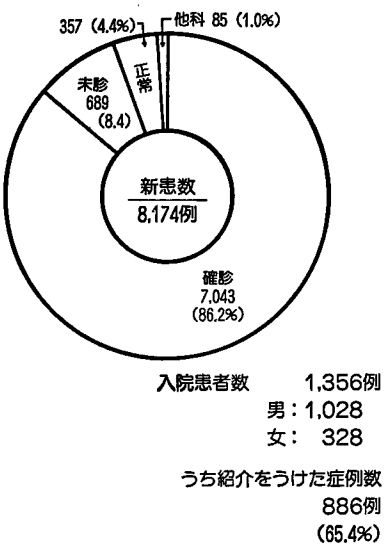

Fig. 2. 1986年度新来患者（新患）の内訳.

今年度は60例受診した．

内分泌・代謝疾患を Table 3 (3) にまとめた．IMP（インポテンツ）は56例で1985年6月より IMP

Table 2. おもな外来手術名と例数（1986年）．

手術名	例数
環状切開	64
精管結紮	37
コンジローマ切除	33(うち女1)
その他	48
	182

Table 3 (1). Ⅰ．伝染病および寄生虫病．

		例数	男	女
016	性尿器系の結核			
	腎結核	12	2	10
096	梅毒	12	9	3
098	淋菌感染	124	119	5
099	性器ヘルペス	28	24	4
112	カンジダ症	7	3	4
	クラミジア感染	2	2	0
134.1	毛じらみ症	13	10	3

Table 3 (2).

		例数	男	女	*再発
	Ⅱ．新生物（悪性）				
158	副腎腫瘍	4	3	1	
	後腹膜腔腫瘍	1	0	1	
185	前立腺癌	19(1)*	19(1)*	−	
186	睾丸腫瘍	14	14	−	
187.0	陰茎癌	0	0	−	
188	膀胱腫瘍	58	48	10	
189.0	腎癌(Crawitz腫瘍)	8	7	1	
189.1	腎盂・尿管腫瘍	6	4	2	
189.2	尿道腫瘍	3	1	2	
182.2	子宮癌の尿路侵襲	8	−	8	
154	胃腸系癌の尿路侵襲	1	1	0	
	Ⅱ．新生物（良性）				
222.1	外陰部コンジローマ	60	57	3	
223.8	尿管ポリープ	1	1	0	
	尿道ポリープ	1	1	0	
	尿道カルンケル	44	…	44	

専門外来を設けて，精力的に精査・診断・治療にあたっている．

泌尿器系疾患を Table 3 (4), (5) に示した．稀有な腎梗塞1例を経験した．上部尿路結石症総数は1,296例であった．

先天異常を Table 3(6) に示した．腎のう胞90例と増加（昨年54例）したのは血尿などの精査のうち CT 検査を施行する頻度が多くなったためと考えている．稀有なL型癒合腎1例経験した．

不慮の事故を Table 3 (7) に示した．分類上問題となる神経因性膀胱は，脳出血，血栓後遺症や hypotonic type がおもなる原因，型である．異物は1例も受診しなかった．

不明確な状態を Table 3 (8) にまとめた．疼痛150例はいずれも側腹部痛でおもに尿路結石の精査のためである．また血尿も258例受診したが，結石の他，学校健診や40〜50歳代の会社，保健所の健診にて指摘された血尿の精査によるものがおもである．

Table 3 (3).

		例数	男	女
	Ⅲ．内分泌・栄養・代謝の疾患			
257	睾丸機能障害			
(606)	無精子症	10	10	…
	(XXY症例)	1	1	
	乏精子症	13	13	…
	類宦症	−	−	…
	死精子症	−	−	…
	血精液症	23	23	…
	インポテンツ	56	56	…
270	チスチン症	3	2	1
	Ⅴ．精神障害			
306.6	夜尿症	37	27	10

ま　と　め

1．1986年度新来患者の主疾患は，膀胱炎1,651例(21.4%)，上部尿路結石症1,296例（16.8%），前立腺炎1,093例（14.1%），前立腺肥大症870例（11.3%）であった（Table 4）．

2．1986年度の新患の男・女別の主疾患は，男子では前立腺炎，上部尿路結石症，前立腺肥大症，亀頭包皮炎であった．女子では，膀胱炎，上部尿路結石症，腎

Table 3 (4). 性尿器系の疾患．

		例数	男	女
580	急性腎炎	4	0	4
581	ネフローゼ症候群	7	4	3
582	慢性腎炎	33	23	10
584	腎の萎縮	10	3	7
590.0	腎盂腎炎	143	4	139
	VUR	18	3	15
591	水腎症	42	21	21
593	腎梗塞	1	1	0
592	腎および尿管結石			
	腎結石	327	215	112
	腎・尿管結石	88	57	31
	尿管結石（経過も含む）	881	639	242
594	膀胱結石	25	20	5
	尿道結石	1	1	0
	腎杯憩室結石	9	1	8
595	膀胱炎	902	39	863
	膀胱脱	3		3
596	亀頭包皮炎	335	335	—
597.0	尿道炎	157	122	35
597.1	尿道・膀胱炎	749	14	735
598	尿道狭窄	48	46	2

Table 3 (5).

		例数	男	女
600	前立腺肥大症	854	854	—
	膀胱頸部硬化症	16	16	—
601	前立腺炎	1093	1093	—
	（うち急性前立腺炎）		(29)	
603	陰嚢水腫	57	57	—
604	睾丸炎（うちmumps）	7	7(4)	—
	副睾丸炎	95	95	—
605	包　茎（うち真性）	192	192(13)	—
607	その他　睾丸捻転	4	4	—
	嵌頓包茎	18	18	—
	睾丸垂捻転	5	5	—
	陰茎硬結	8	8	—
	精索静脈瘤	4	4	—
	精索水瘤	2	2	—
	精液瘤	4	4	—

Table 3 (6). XIV. 先天異常．

		例数	男	女
752	性器の先天異常			
752.1	停留睾丸	33	33	(B：7　R：14　L：12)
	遊走睾丸	20	20	(B12、　R1、　L7)
752.2	尿道下裂	1	1	—
752.8	膀尿道口嚢腫	3	3	—
753	泌尿器系の先天異常			
753.1	腎嚢胞	90	59	31
	嚢胞腎	4	3	1
	海綿腎	7	3	4
	廻転腎	3	1	2
	骨盤腎	1	0	1
	癒合腎	1	1	0
	馬蹄鉄腎	4	3	1
	重複腎盂（兼不完全重複尿管）	13	4	9
	（兼完全重複尿管）	8	3	5
753.4	下大静脈後尿管			
	尿管瘤	1	0	1
	腎下垂	103	7	96
	腎杯憩室	4	1	3
	巨大尿管	1	1	0
	尿管憩室	—	—	—
	盲端尿管	1	0	1
	尿管狭窄	7	4	3

Table 3 (7). XVII. 不慮の事故.

		例数	男	女
E810	腎外傷	6	5	1
	尿道断裂 完全	1	1	−
	不完全	6	6	−
	睾丸打撲	2	2	−
	陰嚢血腫	2	2	−
	陰茎損傷	4	4	−
	外陰部外傷	3	3	−
	神経因性膀胱*	170	97	73
	瘻孔状態*	11	10	1
N939	性尿路系の異物	0	0	0

(＊分類上問題あり)

Table 4. まとめ(1)新患の主疾患 (1986年度).

主疾患	例数(%)
1. 膀胱炎(急性・慢性)	1651 (21.4)
2. 上部尿路結石症	1296 (16.8)
3. 前立腺炎(急性・慢性)	1093 (14.1)
4. 前立腺肥大症	870 (11.3)
5. 亀頭包皮炎	335 (4.3)
6. 包茎	192 (2.5)
7 神経因性膀胱	170 (2.2)
8. 尿道炎	157 (2.0)
9. 腎盂腎炎	143 (1.8)
10. 淋菌性感染	124 (1.6)
その他、腎下垂、陰嚢水腫、腎嚢胞	

(%)は有疾患数に対する割合
男：4872
女：2860

Table 3 (8). XVI. 症状および診断名不明確の状態.

		例数	男	女
786	性尿器系に関する症状			
786.0	疼痛	150	89	61
786.1	尿閉	14	5	9
786.2	尿失禁	26	11	15
786.3	排尿頻数	49	24	25
786.5	乏尿	4	1	3
	尿毒症	36	25	11
	急性腎不全	3	0	3
	浮腫	28	4	24
	不妊	14	14	0
789	尿成分異常			
799.0	蛋白尿	27	15	12
	細菌尿	3	3	0
	血尿	258	126	132
	腎出血	40	12	28

Table 5. 1986年新患男・女別の主疾患.

(男) 主疾患	例数 (%)	順位	(女) 主疾患	例数 (%)
前立腺炎	1,093 (22.4)	1	膀胱炎	1,598 (55.9)
上部尿路結石	911 (18.7)	2	上部尿路結石	385 (13.5)
前立腺肥大症	870 (17.9)	3	腎盂腎炎	139 (4.9)
亀頭包皮炎	335 (6.9)	4	腎下垂	96 (3.4)
包茎	192 (3.9)	5	神経因性膀胱	73 (2.6)

( )%は有疾患数に対する割合
男: 4,872
女: 2,860

盂腎炎，腎下垂がおもであった (Table 5).

3．当院開設以来の年齢層別の新患数を Fig. 3 に，外来新患の主疾患を Fig. 4 に示した．ESWL の治療によるものの他，疼痛，血尿などの精査で受診することが多くなったためか，ここ2～3年前より50歳代にもう1つの peak を認めた．また昨年度より上部尿路結石症が第2位を占め，その割合も10%から17%と上昇した．

この論文の主旨は昭和62年3月28日（土）第286回日本泌尿器科学会北海道地方会にて発表した．

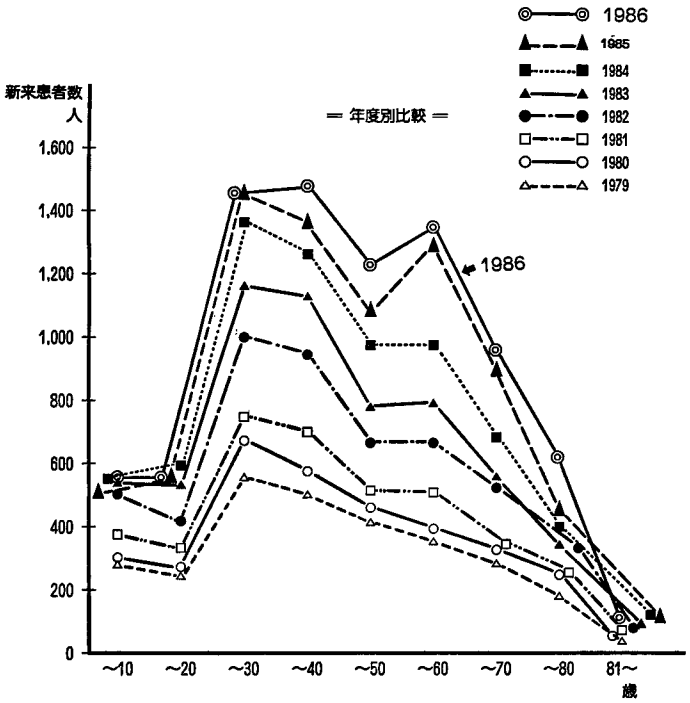

Fig. 3.　年齢層別症例数.

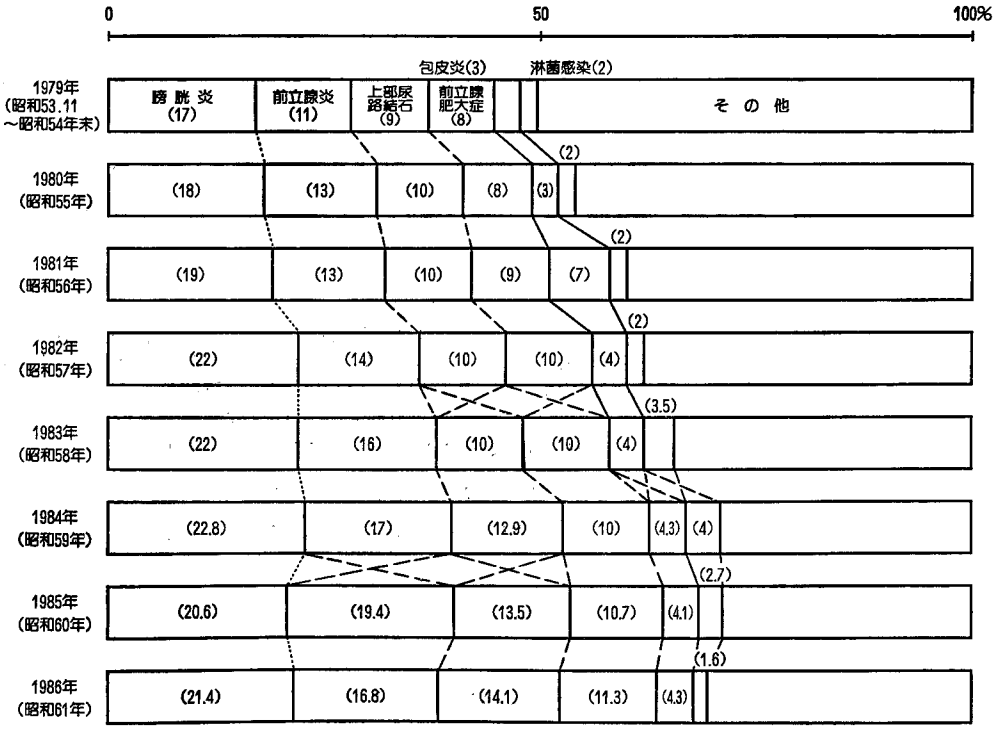

Fig. 4.　外来（新患）患者の主疾患.

文　　献

1）丹田　均・加藤修爾・大西茂樹・坂　丈敏・中嶋久雄：東札幌三樹会病院における臨床統計（第1報），1983年度外来新患統計．泌尿紀要 **30**：1671～1676，1984

2）加藤修爾・大西茂樹・坂　丈敏・中嶋久雄・丹田均：東札幌三樹会病院における臨床統計（第2報），開設より5カ年余の外来新患統計．泌尿紀要 **30**：1677～1684，1984

3）丹田　均・加藤修爾・大西茂樹・坂　丈敏・中嶋久雄：東札幌三樹会病院における臨床統計（第3報），1984年度外来新患統計．泌尿紀要 **31**　1743～1749，1985

4）坂　丈敏・中嶋久雄・大西茂樹・加藤修爾・丹田均：東札幌三樹会病院における臨床統計（第4報），開設より5カ年余の入院および手術統計．泌尿紀要 **31**：1751～1759，1959

5）丹田　均・加藤修爾・大西茂樹・中嶋久雄・坂丈敏：東札幌三樹会病院における臨床統計（第5報），1985年度外来新患統計．泌尿紀要 **33**：730～734，1987

（1987年4月7日迅速掲載受付）

アレルギー性疾患
慢性肝疾患に……

■グリチルリチン製剤
強力ネオミノファーゲンシー
健保略称　強ミノC

●作用
抗アレルギー作用，抗炎症作用，解毒作用，インターフェロン誘起作用，および肝細胞障害抑制・修復促進作用を有します。

●適応症
アレルギー性疾患（喘息，蕁麻疹，湿疹，ストロフルス，アレルギー性鼻炎など）。食中毒。薬物中毒，薬物過敏症，口内炎。
慢性肝疾患における肝機能異常の改善。

●用法・用量　1日1回，1管（2ml，5ml，または20ml）を皮下または静脈内に注射。
症状により適宜増減。
慢性肝疾患には，1日1回，40mlを静脈内に注射。年齢，症状により適宜増減。

包装　20ml 5管・30管，5ml 5管・50管，2ml 10管・100管
※使用上の注意は，製品の添付文書をご参照下さい。

●内服療法には　グリチロン錠二号
包装　1000錠，5000錠

健保適用　　株式会社 ミノファーゲン製薬本舗（〒160）東京都新宿区四谷3-2-7